

金のイクラを集めるだけの簡単なお仕事です

とうりりりり

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

クマサン商会はアットホームで明るく楽しい職場です!!

クマサン商会においてよ!! ブキ制服支給有り、通勤船完備、優しいセンパイと一緒に君もたくさん金イクラを集めよう!

クマサン商会はとってもいいところだよ!

目次

アルバイトのキホンのキ

—

1

アルバイトのキホンのキ

空は濁り、緑色のインクが飛び散っている。わあおそらきれい。

「イヤーツ！ 無理デス！ コウさんヘルプ——！」

「こんのクソブキがあ！」

悲鳴と怒声が聞こえるけどなんでだったかなあ……。

「おいバカ！ カタパッド——」

私は、なんでこんなことしてるんだっけ——？

その疑問を塗りつぶすようにインクミサイルが直撃し、私は破裂した。

一ヶ月前——。

「ここがハイカラスクエア……」

14歳になった私はここ、流行の発信地であるハイカラスクエアにやってきた。

イカしたガールになるため、まずはナワバリバトルでランクをあげて……と考えていると道行くイカたちの格好に目を奪われる。

皆それぞれ違う魅力はあれどイカしたファッションでオシャレたドリンクを飲んでいたり、揃いの服でチームの仲間とこれからナワバリバトルに向かおうとしているのもいた。

——私も早くあんなオシャレなギアが欲しいなあ。

ともかくランクをあげないことにはろくにギアも買えないのでこうして私のナワバリデビューが幕を開けた。

デビューから一週間後、ランクは少しあがったものの危機的状況に直面していた。

そう、おカネが足りないのである。

ついついブキを買ってしまったせいでギアを買うおカネがすっからかんになってしまったのだ。

ナワバリバトルで稼ぐにしても時間が掛かるし……。

『こんちゃーつ、ハイカラニュースの時間だよ!』

『今日もハイカラスクエアのかたすみからテンタクルズがおとどけます』

頭を抱えているいつものお馴染みハイカラニュースが流れてくる。現在のステーション紹介中だ。

「ヒメちゃんは今日もかわいいな〜」

テンタクルズのヒメちゃんは応援しているアイドルで、相方のイイダちゃんとの相性ばっちりのラップパーだ。私のお気に入りブキであるマニユーバ使いであることから尊敬するイカでもある。

すると、いつもと違うニュースが流れる。

『えーつと……クマサン商会からアルバイト募集ノオシラセデス』

『センパイ! カンペ見過ぎですよ!』

「クマサン、商会……?」

ちよつと怪しそうな広告が流れ、すぐ近くにあることを知るとアルバイトという今の私に魅力的なそれは正常な判断力を失わせてしまった。

はじめての方でも大丈夫、センパイスタッフが丁寧に指導! ブキ、制服支給あり

……しかも働けば働いた分だけ報酬がもらえる。

「よし、せっかくだしアルバイトやってみよっ！」

それがまさか、私の *wa*^賃*ge*^金 *sl*^奴*ave*^隷 の始まりだとは、この時は思っていなかったのです。

「は、はじめましてー！」

クマサンから軽い研修を受けたあと、次の船が出るということでこれから同行するセンプアイに挨拶すると三者三様の反応を示す。

まず三人の中で一番威圧感のあるボーイがじとつとした目でこちらを見てくる。次に今ちよつと流行ってるのかよく見かけるイイダちゃんみたいな髪型のガールが軽く会釈してくれた。そしてどこか死んだ目をしているボーイは気づいているのか気づいていないのかわからないがぼんやりと虚空を見つめていた。

「……新人か。名前は？」

「ムギといます！」

威圧感のあるボーイはそうか、と答えて淡々と私に言う。

「俺はコウ。現場では俺の言うことを聞くように」

「はいっ！」

「あとこつちはヤナギ、そこで死んだ目をしてるのがシリヤ。シリヤは始まつたらマシンになるから気にするな」

お疲れみたいだけど大丈夫なんだろうか。

それはさておきバイトの主な内容を再度頭の中で復習する。

一番の目的は金のイクラを回収しコンテナに集めること。

金のイクラはオオモノシヤケから得ることができ、襲い来るシヤケを倒して3WAV Eのノルマをクリアする。それで1回分のバイトが終了。ただし、ノルマを達成できない場合は途中でも帰還。

ブキは決まったものがランダムで支給され、スペシャルは2回まで。

ちよつとシビアな気もするがまあ大丈夫だろう。

そして制服にも着替え、もうすぐ目的地につくということのでワクワクしながら準備すると、全員どこか達観したような目の先輩たちとの温度差を感じつつもスーパージャンプで現場へと向かう。

今日のサーモンラン

ステージ：シエケナダム

シャープマーカー、ノーチラス47、クラッシュブラスター、スプラスコープ

船から飛んだ先はシエケナダムと呼ばれる寂れた場所。そしてランダムのブキで私はシャープマーカーを引いた。

始まってすぐ、センパイたちの行動は迅速だった。

まず足場を塗るのは当然として、なぜかやたら壁も塗っていく。とりあえず真似するようにあちこち塗ると何かを告げる音とともにシャケたちがやつてくる。

「お前はとりあえずザコたちを倒せ。オオモノは俺らがやる」

「はいっ！」

こちらに突っ込んでくるシャケたちにインクをぶつけいわゆるザコ処理に徹する。すると足元で浮きみたいなのが止まり、なんだろうと思つて下を見――

「コウさん！ ムギちゃんモグラに食べられましタ！」

「えっ待つて僕救助する！ コウはバクダン処理して！」

近くにいたシリヤが浮き輪状態になったムギの元へと向かい、コンテナまでシャケを誘導するヤナギ。

そしてスプラスコープを構えるコウは険しい顔を浮かべながら一発でバクダンを仕留めると金イクラを回収して呟いた。

「面倒事押し付けられた……」